



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第8号 令和4年7月19日

小美玉市立美野里中学校

夏休み中の家庭での「お手伝い」

小美玉市では、今年度から2学期制になっているため、明日20日は終業式ではありませんが、21日より夏季休業に入ります。ここまでの保護者・地域の皆様方のご支援・ご協力を心から感謝申し上げます。夏季休業中も、子どもたちが交通事故等にあわないよう、地域での見守りにご協力いただければと思います。

「夏休み中、お家でお手伝いをしましょう」などという、「小学生でもあるまいし」という人もいるかもしれません。

美野里中学校では、普段の学校生活で無言清掃を行っています。本当に一生懸命、ゴミを掃いたり、廊下を雑巾がけしたりする姿が日常化しています。それ以外でも、何か手伝いを頼むと、すぐに気持ちよく引き受けてくれます。今年度は、1・2年生の保護者の方々が奉仕作業をしてくださいましたが、多くの生徒が、休日にもかかわらず一緒に参加して、よく働いてくれました。（3年生の保護者・生徒の皆さんには、8月20日（土）に奉仕作業をしていただきます。）

こんな姿は、学校で見せるだけではもったいなく思います。本校の生徒たちは、仕事さえあれば、きっと喜んで手伝ってくれるはずです。

最近、「ヤングケアラー」が社会問題になっています。これは、本人の意思にかかわらず、家庭内で過度の労働を「強られる」場合をいいます。

そうではなく、子どもに家族の一員としての自覚を高める営みにしていただきたいのです。



今読んでいる本に次のような記述がありました。

子どもの力をあてにしない生活は、周囲のニーズに気づく力をさびつかせ、周囲にかかわろうとする力をどんどん鈍くしてしまうわけです。

日常生活で認められる機会を（便利になりすぎた）家電製品に奪われた子どもが親に認められるためには、勉強やスポーツなどで成果を上げるしかなくなります。しかし、みんながみんなそれらで成果を上げられるわけではありません。すると、自分の存在価値に疑問をもつ子どもも出てくるのでしょうか。自分の力を必要としない生活の中で、子どもは毎日、自分が無力であることを学んでいるのではないのでしょうか。

お手伝いの後には、お小遣いよりも、ごほうびよりも、心から「ありがとう」と言ってあげてください。物は時間が経てばなくなってしましますが、心や思いは大切な部分に残ります。その温かさは、子どもの未来に結び付いていきます。自分が大切な存在であることを確かめさせるためにも、どうぞこの夏休みをきっかけに、家での「お手伝い」をさせてあげてください。